

ヨハネの手紙第一2章26-27節 「注ぎの油」

1A 惑わす者たち 26

1B 終わりの時

2B 仲間から出て来る者たち

3B 選ばれた者たち

2A 教えられる御霊 27

1B 御子による賜物

2B 内におられる方

3B 留まってくださる方

4B 不要な教え

5B すべてを教えられる方

6B 真理の御霊

7B 御子に留まる力

本文

ヨハネの手紙第一 2 章を開いてください。今晚は、26-27 節を見ます。「²⁶ 私はあなたがたを惑わす者たちについて、以上のことを書いてきました。²⁷ しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっているので、だれかに教えてもらう必要はありません。その注ぎの油が、すべてについてあなたがたに教えてくれます。それは真理であって偽りではありませんから、あなたがたは教えられたとおり、御子のうちにとどまりなさい。」

使徒ヨハネは、2 章 18 節から、「今は終わりの時です。」と言い出して、その時に反キリストが多く現れる話をしはじめました。そこで、ここで「以上のことを書いてきました」として、多くの反キリストについての話をいったん、まとめます。惑わす者たちはいるけれども、あなたがたには注ぎの油が留まっているのだよ、という、すばらしい約束について、使徒ヨハネは教えてくれています。私たちの内に宿るご聖霊のことです。

1A 惑わす者たち 26

では、じっくりと 26 節から一句一句、見ていきます。「あなたがたを惑わす者たち」ということです。

1B 終わりの時

2 章 18 節にあるように、これは、「終わりの時」を踏まえてのことであることが分かります。使徒パウロも、テモテへの手紙第一で、終の時代になると惑わしの霊の教えが出て来ることを教えています。「I テモ 4:1-3 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは

惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。2 それは、良心が麻痺した、偽りを語る者たちの偽善によるものです。3 彼らは結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人々が感謝して受けるように、神が造られたものです。」これは、グノーシス的な教えです。霊は善であり、肉体におけることは悪であるというのがグノーシス主義の特徴ですが、食欲や性欲に関することは悪であるとし、それを禁じるという教えです。これは、惑わす霊と悪霊の教えだとパウロは断じていて、後の時代にはびこるようになるということです。

福音以外のことで、何かを禁じるという律法主義的な教えが入ってきたら危険です。真面目な人たちは特に、終わりの日になってくると不法がはびこるので、それから守られるべく、対抗するべく、自分たちの力で対抗しようとしてます。それで、かえって福音を信じる信仰から離れて行く力を受けるのです。私たちは、福音によって、イエス・キリストを信じる信仰によって私たちは勝利するので、福音の中に生きる、恵みの中に生きることこそが、暗き世における光となることができます。

それとは真逆に、偽りの教えを語る者たちも出てきます。パウロがテモテ第二 3 章でこう言いました。「Ⅱテモ 3:1-5 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。3 また、情け知らずで、人と和解せず、中傷し、自制できず、粗野で、善を好まない者になり、4 人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快樂を愛する者になり、5 見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人々を避けなさい。」これも実は、グノーシス的な動きです。肉体は元々悪なので、肉において行うことは霊のことには影響を与えないとする考えです。なので、肉の欲するままに行っても、私は神を知っているからそれでよいのだとする考えです。見かけは敬虔であっても、敬虔の力をこうやって否定しています。

以前、学んだように、終わりの時に、まことのキリストが来られる前に、偽のキリストが来るのが聖書には予告されています。その人物は、悪魔の力、権威、位を受けて現れます。なぜ、多くの人が反キリストを受け入れるのか？というと、福音の真理を愛する愛がないからで、神は裁きとして、そういった者たちを惑わされるままにされるのです。そのことをパウロは、テサロニケ第二 2 章で語っています。「2:9-12 不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、10 また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。11 それで神は、惑わす力を送られ、彼らは偽りを信じるようになります。12 それは、真理を信じないで、不義を喜んでいたすべての者が、さばかれるようになるためです。」

2B 仲間から出て来る者たち

ヨハネが 2 章 18 節以降で語っていた中でもう一つ大事な点は、元々、そういった偽りの教えを

言う人々は自分たちの仲間にしたということです。「2:19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし仲間であったなら、私たちのもとに、とどまっていたでしょう。しかし、出て行ったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためだったのです。」私たちは、外部の人たちが偽りの教えを教えているというのであれば、まだ衝撃は少ないです。けれども、惑わされてしまうのは、仲間であるはずの人たちから違った教えをしてくる人たちが出て来るからです。使徒ペテロが第二の手紙で警告しています。「2:1 しかし、御民の中には偽預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れます。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込むようになります。自分たちを買い取ってくださった主さえも否定し、自分たちの身に速やかな滅びを招くのです。」

3B 選ばれた者たち

そして、反キリストの流れは、大患難時代、具体的にはイスラエルの残りの民ですが、選ばれた者たちをも惑わそうとします。「マタ 24:24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。」

2A 教えられる御霊 27

しかし、この手紙を呼んでいる、ヨハネが「幼子たち」と呼ぶ者たちは、主にあって守られていることを27節でヨハネは語っているのです。まず、「しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっている」と言っています。

1B 御子による賜物

ヨハネがここで言っている注ぎの油とは、聖霊であることは以前の学びで学びました。祭司たちが油注がれることによって、聖なる者とされ、主にお仕えする者となっているように、キリスト者は、聖なる御霊によって、聖別されて、神のものとされて、神に仕えているということです。イエス様も、バプテスマを受けられ、その時に聖霊が鳩のように降りて来られました。それから、聖霊に満たされて公の働きを始められました。ゼカリヤ書4章で、主が「わたしの霊によって」と言われましたが、ゼカリヤが見たものは、オリーブの木から燭台に油注がれている幻でした。

ここでは、注ぎの油が「御子から受けた」とあります。聖霊は、イエス様から与えられたもの、賜物です。「ヨハ 14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」イエス様が父なる神に願われて、それで私たちに聖霊が与えられました。ですから、私たちは自分で自分を必死にする、ということではなく、聖霊ご自身の賜物によって私たちが見分けられるということなのです。

2B 内におられる方

そして、注ぎの油は、「あなたがたのうち」におられるということです。イエス様は、ヨハネ14章で

続けて約束を与えられました。「14:17b この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」内におられるようになる、と言われていました。パウロは、この方はキリストの御霊だと言っています。「ロマ 8:9 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。」神の御霊が内に住んでおられるので、自分は御霊の内にて、そしてキリストのものになっています。この内なる証明と言ったらよいでしょうか、御霊が内に住んでくださるので、何が真理で偽りであるかを見分けることができるようになっているのです。

3B 留まってください方

そして、注ぎの油が「とどまっている」と言っていますね。ある時に御霊がおられて、またある時に去って行ってしまふ、ということではないのだということです。かつてダビデは、バテ・シェバと姦淫の罪を犯した後に、悔恨の祈りを献げましたが、その時に「詩篇 51:11 私を、あなたの御前から投げ捨てず、あなたの聖なる御霊を私から取り去らないでください。」と言いましたが、確かに当時は、そういうことがありました。自分の前のサウル王が、主の御声に聞き従わなかったので、御霊が彼から離れ去りました（Iサム 16:14）。主がご自分の血で私たちを洗い清められた今、その御霊の証印は決して取り消されることはありません。

もちろん、罪を犯しているのであれば、激しく聖霊は悲しまれています。「エペ 4:30-31 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。」けれども、聖霊は私たちが罪を犯す時に、同じように罪に対する悲しみを与えて下さり、悲しむべきことを信じるに悲しみ、真実な悔い改めへと導いてくださるのです。

新しい契約の特徴は、外にある律法ではなく、心に律法が書き記されるところにあります。「エレ 31:31-34 見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——【主】のことば——。33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——【主】のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」そして、エゼキエル書では、新しい契約が、御霊が注がれて、石の心から肉の心に変えられるということで成就することを教えています(36:26)。

4B 不要な教え

そして、ヨハネは、注ぎの油が内にとどまっているので、「だれかに教えてもらう必要はありません。」と言っています。これは、誰からも教えを受けてはいけない、自分自身で教えることができるということではありません。現に、この手紙でヨハネが教えているのですから、そういったことを言っているではありません。主ご自身が、教師を立てられて、牧師また教師の働きによって、聖徒たちが奉仕の働きのために整えられることが、エペソ4章で書いてあります。

そうではなく、「だれかの支配を受ける必要はない」と言ってもよいかもしれません。例えば、エホバの証人がいます。彼らは、聖書を正しく解釈するためには、「目覚めよ」という雑誌など、彼らの教師たちの解釈が必要だとします。もしその解釈から離れるなら、滅びてしまう、神から裁かれるということをお話すわけですが、絶えず、教えられて、自分の内にその確信がなくともそう思い込まないといけなのです。グノーシス主義者らが、知識が秘密に一部の者たちに与えられて、その知識によって救われるとすることにより、自分自身で真理をすることができないようにさせていたのです。今の言葉で言うならば、「カルト化」です。思い込ませるために、心理的な操作、洗脳の手段も辞することなく行います。

しかし、御霊が内に留まっておられたら、そんなことをする必要はありません。真理を教える者も、御霊によって教えられ、それを分かち合うのであり、真理を聞く者も、御霊によってそれが真理であると証しされるのです。「I コリ 2:13-14 それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。」

「あなたは真理をまだ分かっていませんね。」という言葉、いろいろな所で聞きます。そして、「これが真理です。」とまことしやかに言います。イエスを御子キリストだと信じている者たちに対しても、そのような言葉をかける時、それは反キリストの霊であると言えます。そのような時、「だれかに教えてもらう必要はありません。」と心の中で抵抗すればよいのです。

牧会者として経験上でも観察できることは、多くの知識を得ている人々が、必ずしも、見分けられているか？というところではないことを気づきます。いや、その膨大な知識に埋没してしまい、ごくごく基本的な教えから離れていってしまうことが多々あります。その反面、まだ信仰をもって間もない人々が、なぜだか分からないけれども、これはおかしいとして拒む姿もたくさん見ました。

5B すべてを教えられる方

そして、「その注ぎの油が、すべてについてあなたがたに教えてくれます。」とありますね。これ

は、すごいことです。けれども、サマリアの女がメシアについて次のように言いました。「ヨハ 4:25 私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」そのメシアが、私たちのご自分の御霊をくださったのです。私たちは、知識について量で捕らえがちです。けれども、知識は質なのです。メシアを知ったら、一切のことが知らされたのです。ゆえに、御霊によって、すべてのことが教えられているのです。「I コリ 2:15 御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません。」

そして、聖霊が導かれることによって、初めて教えられるのだという、御霊への完全な信頼が必要になります。イエス様が弟子たちにこう語られました。「ヨハ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」聖霊が、すべてのことを教えてくださいます。イエス様が語られたことを思い起こさせるのも、聖霊の働きです。ですから、私たちが受験勉強で暗記して、それを試験の時に放出するようなものではないのです。もちろん、覚えることもとても大切です。けれども、ある時に、必要な時に、聖霊が教えて下さり、主のことばを思い起こさせてくださるのです。

6B 真理の御霊

そして、「それは真理であって偽りではありません」と、ヨハネは私たちに、太鼓判を押してくれています。御霊に信頼するとしても、何か偽りに引き込まれることはないのだろうか？と心配することはない、ということです。イエスは、「ヨハ 14:17 この方は真理の御霊です。」と言われました。

また、イエス様は、父なる神に「あなたのみことばは真理です。」と言われたのですから、御霊が教えられることと、神のことばは矛盾しません。もし矛盾するのであれば、御霊からだと言いながら、実際は自分の勝手な思いを語っていたりするということです。しるしや不思議を見れば、それが神からのものだと思ってしまうのですが、終わりの日には、しるしや不思議をもって人を惑わすことも警告されており、みことばの真理にかなう御霊の教えであります。

7B 御子に留まる力

そして最後に、ヨハネは、「あなたがたは教えられたとおり、御子のうちにとどまりなさい。」と言います。そう、ここに戻っていいのだよ、と励まし、慰めているのです。24 節で、「あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。」と話していました。御子を信じることによって、御霊の賜物が与えられています。御子にとどまることによって、御霊が教えてくださいます。その関係にこそ、あらゆる惑わしから自分を守る盾があるのです。